

福井市公正入札調査等委員会の開催概要について

このことについて、令和4年度福井市公正入札調査等委員会（第3回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

1 日 時 令和5年2月9日（木） 13：30～15：00

2 場 所 福井市役所 第3委員会室

3 出席委員 委員5名

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議題

- ・入札及び契約手続きの運用状況の報告（令和4年10月～令和4年11月）
- ・抽出事案審議（5件）

(3) その他

- ・管工事における入札状況の報告

(4) 閉会

5 会議概要

(1) 入札及び契約手続きの運用状況の報告（契約課）

- ・契約件数、請負率の状況について説明。

(2) 企業局の入札及び契約手続きの運用状況の報告（経営管理課）

- ・契約件数、請負率の状況について説明。

(3) 抽出事案審議

ア 審議事案1

西藤島小学校、湊小学校、足羽小学校特別教室空調設備工事（条件付一般競争入札）

Q この事案の他にも同様の工事があり、全て3校の小学校を1件の工事として発注しているが、3校ずつ合わせた方が参加しやすく競争が働くのか。3校を一括りとするのは、基本的なことなのか。

A 3年間で70校の工事を進める必要があり、一度に沢山の工事を施工するには3校ずつの手持ちならば施工可能であると判断し、工事期間や機器の納期等も考えた結果である。

Q 離れているように思うが、エリア的にはどうか。

A 都市ガス供給エリアについてはガス空調を選択し、都市ガスのないところには電気空調とするが、案件の3校は都市ガス供給エリアなので少し離れてはいるが一括りとした。

Q ガス空調と電気空調の使い分けはどうか。

A 福井市企業局がガス事業を民間に譲渡したので、ガス空調を選択する必要がないと思われるが、新たに電気式空調設備を大量に導入すると、電気容量が増えるため引き込みやキュービクルなどの大規模な工事が必要となるので、ガスが元々引かれていた学校にはガス空調を、都市ガスのないところには電気空調とした。

イ 審議事案2

県単排水路復旧工事（平尾地区）（指名競争入札）

Q 指名業者数12者中、参加者1者のみで、請負率99.71%と高いが何か理由はあるのか。

A 本件は、中山間にある農地のブロック積みの復旧で、大部分が土工事で掘削や埋め戻しである。冬場の工期で晴れる日が少なく、積雪も多く、土のぬかるみ等への対処で作業ロスが非常にしやすい状況にあり業者が嫌厭する傾向にあったと推測する。また、現場条件、現場までの距離、作業効率など含めた金額で入札した結果、高くなってしまったものと考ええる。

Q 資格要件で総合評価値が700点未満とあるが、どのように決めるのか。

A 評価値の点数は、設計金額に応じて区分される。この事案は、設計金額が500万円未満なので、評価値は700点未満に該当する。設計金額が大きくなればなるほど評価値も上がる。

ウ 審議事案3

R04 浸絜No571-調節池詳細設計外業務委託（普通河川 狐川支川）（条件付一般競争入札）

Q 最低制限価格と請負額に開きがあるのはなぜか。最低制限価格に近いところで落札しているのならある程度は適切だと思うが、請負率90%台で落札しているので、最低制限価格の意味がないように思うが。その辺はどうか。

A 本件の業務は周辺の土質や水路の測量など全体を見て調節池設置の容量等を決めないといけないう工事なので、業務の内容は比較的難しいものとなっている。また、時間と手間のかかる業務であるのに、年度末までの工期となっていることから設計額に近い請負額でないと割に合わなかったものと推測する。

Q 設計業務において最低制限価格率の見直しはないのか。

A 令和2年4月に、地質調査79～83%、地質調査以外76～80%と率を上げて改定をしているので、今後、他自治体等の動向を見て適正に改定していきたいと考えている。

エ 審議事案4

R4 水管305号島橋町、中ノ郷町配水管復旧工事（条件付一般競争入札）

Q 設計額が450万円ほどで、資格条件該当業者が24者あるのに入札参加業者は1者であった。それほど高額ではないが、なぜ参加者は1者なのか。

A 発注時期が10月下旬であったことで、業者には既に手持ちの工事があることや、かなり狭い区道の中を埋設していくという工事なので、いろいろな経費がかかることを想定し参加しなかったものと推測する。

オ 審議事案5

R4 下施155号美山浄化センター場内舗装工事（指名競争入札）

Q 本件のように評価点がなく、完成工事高だけで資格要件を示す場合もあるのか。

A 場合もある。本件は、発注工種が舗装で500万円程の事案であるが、その基準については完成工事高1,000万円以上ということで点数は求めない。

(4) その他

管工事における入札状況の報告

Q 管工事における請負率と物価高騰について。

A 昨年度から資材は1.3倍から4倍に、人件費、動力費、ガソリン代なども上がってきており、積算の段階でこれらを見てはいるが、価格高騰がそれ以上に上がり続けていることから、請負率もどうしても高くなる現状にある。

管工事の入札について、今後も引き続き調査する。